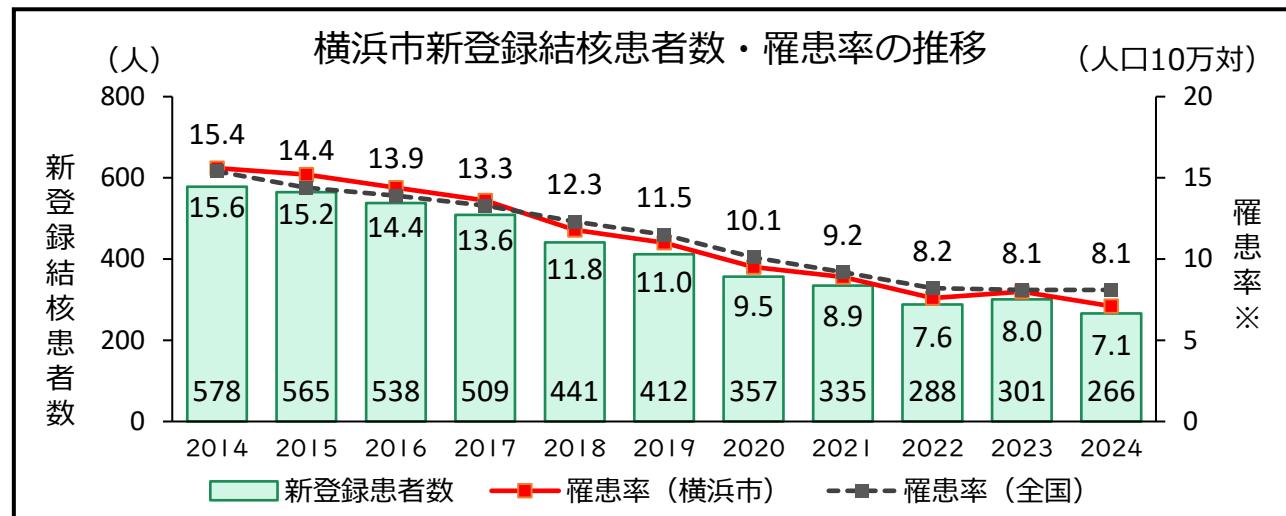


横浜市結核通信

発行 2025年10月
担当 横浜市医療局健康安全課
電話 健康危機管理係（結核担当）
045（671）2729

■ 新登録結核患者は減少しています

横浜市の2024年1月1日～12月31日に新たに登録された結核患者数は266人、結核罹患率※は、7.1でした。結核低まん延水準である10.0を下回っていますが、更なる早期発見・早期治療、治療完遂への支援等が求められています。



※ 罹患率：1年間の新登録結核患者数を人口10万対で表したもの

■ 20歳代では入国5年以内に発症した外国出生者が多いです

外国出生の新登録結核患者は、2022年から2024年に全国で1,214人から1,980人、横浜市では、2022年から2024年で29人から54人に増加しています。横浜市の54人のうち、28人が20歳代、12人が30歳代でした。

また、外国出生の新登録結核患者54人のうち、入国5年以内の新登録結核患者は全体の50.0%を占めています。

【横浜市】
2024年外国出生の新登録結核患者のうち、入国5年以内の方は
20歳代：75%
30歳代：33.3%
でした



日頃の体調管理や発症時の受診、学校での健診が重要です

学校で行うことができる感染症予防策

■ 日頃からの感染予防対策

- ・手洗い
- ・咳工チケット（有症状時のマスク着用）
- ・定期的な部屋の換気



30分に1回以上、数分程度窓を全開するよう心がけましょう
複数窓がある場合、二方向の窓を開閉しましょう
窓が1つしかない場合はドアを開けましょう

■ 定期的な検査

- ・1年に1回、胸部エックス線検査の実施



症状が続いたら受診し、結果を確認しましょう

■ 症状の例

- ・2週間以上の長引く咳
- ・痰
- ・発熱（微熱）
- ・胸痛
- ・体重減少
- ・血痰
- ・体のだるさ



受診先は、胸部
エックス線検査が
できるところが
望ましいです

マスクを着用しているシールぼうや

☒ 結核と診断されたら

■ 内服治療と定期受診

- ・6か月から9か月の内服治療と定期受診が必要です。

■ 公費負担医療制度の利用

- ・お住まいの区役所が窓口です。

■ 薬の飲み忘れがないか支援者のチェック（DOTS）

- ・同居の友人など、身近な方が飲み忘れがないかをチェックします。
- ・さらに区福祉保健センターの保健師がチェックします。

※区役所で右のような服薬手帳を患者本人に配布しています。

（横浜市では英語、インドネシア語、ミャンマー語、ネパール語、中国語、タガログ語、タイ語、ベトナム語版の服薬手帳を発行しています。）



結核定期健康診断補助事業

日本語教育機関が生徒に実施した結核定期健康診断に対する、費用補助制度があります。

- 補助内容：胸部エックス線検査の費用の一部（精密検査は補助対象外）
- 申請方法：横浜市のホームページを参照
- 申請書類提出締め切り日：令和7年11月28日（金）必着
- 申請書類提出先：所在区の福祉保健センター・福祉保健課 健康づくり係

横浜市 結核定期健康診断補助事業 で検索